

いりふねふなつきば
入舟船着場

通船の北の拠点

江戸時代から船着場として利用された場所。

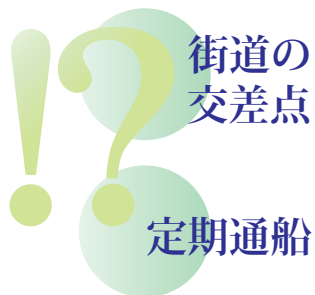
明治になって通船が盛んになり、運行も多く行われた。明治30年代になると、坂下と時又間の定期通船も始まった。大橋のたもとにあり、弁財天宮の脇に1971（昭和46）年建立の史跡標柱が残されている。



大橋から見た入舟



天竜川船着場跡



街道の
交差点

定期通船

伊那街道、金沢街道、権兵衛峠を経て木曾に通ずる街道の分岐点で、天竜川まで100mという好立地にある。各街道から運ばれてきた品物を、この入舟の地で船に積み換え、下伊那竜東などの村々へ大量の物資として運搬・供給した。

1826（明治26）年、南箕輪村の加藤敬亮は入舟と別府・時又に発着場を置いて、坂下（入舟）～時又間を下り5時間、上り30時間を費やし、月12回貨物を運搬した。

現在は、通船も船着場としての利用もされていない。

information

□ アクセス

飯田線伊那市駅から
500m
徒歩→6分

□ 所在地

伊那市坂下



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)